

## 前期 始業式 式辞

年度の始めに私は皆さんたちに勉強の話ではなく、友達の話をしたと思います。

高校１年生の時、私の入ったクラスには同じ中学校から来ている人は一人もいませんでした。とても不安でした。たまたま近くに座っていたマキという女の子と話をするようになりました。けれども私とマキの性格は全く違いました。マキはすごく真面目で優しい女の子でした。私はいい加減で傲慢な子でした。最初の頃、少し気を遣いながら話していたことを今でも覚えています。でもなぜか、私たちは今でもとても仲のよい友人です。友達って不思議です。すごく仲がよかった子と卒業したら全く疎遠になることもあります。逆に話が合わないなあ。と思っていても、ある日の会話で、もしくは長い年月の間で友情が生まれていくこともあります。

新しい年度が始まり、友人ができるか不安になっていたり、友人との関係に悩んでいる人もいるのかもしれませんが。友達は「見つけるもの」ものではなく「育てるもの」です。スタートダッシュは必要ありません。ゆっくりでいいので、同じ時間を過ごしながらか、お互いの様々な面を見ていってください。時にはぶつかったり、理解しあえなくてもいいのだと思います。ただ相手に合わせるだけではなく「私はそうは思わない」と正直に言える関係こそ長続きします。友人でも傷つけられたり、傷ついたりすることもあると思います。傷つけたと思ったら、心から謝り許しを請うてください。そうやってぶつかり合いながら、友人関係を築いてください。

そして、もしかしたら「一人でいる方がいい」と思っている人もいるかもしれません。

実は私も高校時代、休み時間は一人ですっと本を読んでいた。高校時代、カフカ、ツルゲーネフ、カミュ、パールバック、遠藤周作、坂口安吾、小林多喜二、太宰治が私の親友でした。私は彼らの書いた本から、自分以外の多様な他者が存在すること。努力とか想いとかとは関係なく、理不尽な出来事が起こること。そしてそれと同じくらい人生では素敵なことがあるということを学びました。本校の図書室は 3 万冊の蔵書がとてもきれいに整理されている、素敵な図書室です。どうかあなただけの友達を探しに図書室に行ってみてください。

よりよく生きていくためには自分の中に哲学が必要です。何をよしとし、何に怒るのか。どんな自分でありたいのか。それを探す長い旅がこれから始まります。答えは一つではありません。本でも人でも多様な他者と出会い、常に自分の有り様を疑いながら、問いながら、今年度 1 年間を過ごしてください。我々教職員もそんな皆さんとともに歩みたいと思います。そのことをお伝えして、令和 7 年度 始業式式辞とします。

校長